私の部活物語

音羽中・1　後田　彩花

「私、中学校に入学したらテニス部に入る。」
と小学生の私は決めていた。きっかけは、大坂なおみ選手がプレイしているところをテレビで見て、私もテニスを本格的にやってみたいと思ったのだ。
　小学六年生の三学期後半に、私の考えを変えるきっかけとなった出来事が起きた。それは当時中学一年生の先輩たちが作成してくれた音羽中学校を紹介するビデオの中で、部活を紹介してくれるコーナーだ。その時、私の頭の中にはなかった、弓道部や剣道部を見て、
「自分がやれたらかっこいいだろうな。」
と思い、心ひかれた。
　そして、私は中学校に入学した。入学して約一週間後に部活動見学の時間があることを知った私はとてもわくわくしていた。
　部活動見学は二回にわたって行われた。どの部活も活気があって楽しそうだった。その中でも私の目をひいたのは、剣道部と弓道部だ。見学して改めて自分もやってみたいし、できたらいいなと思ったのだ。
　体験入部は二つの部活しかできないので、剣道部と弓道部を体験することにした。テニス部にあれだけ入ろうと思っていたのに、剣道部か弓道部の方がいいと考えが変わったのは、テニスは身近なスポーツだが、剣道と弓道は私の知らなかった世界に飛び込めるような気がして心ひかれたからだ。
　剣道部の体験で、最初一年生の女子は私一人しかいなくて少し心細かった。そんな時、同じクラスの女子が来てほっとした。違う小学校の子なのでしゃべったことはなかったが、なんとなく仲良くなれそうな子だなと思っていたので、とてもうれしかった。話しかけてみると予想通りしゃべりやすかった。その子が、
「私、絶対剣道部に入るって決めていたんだ。女子は私一人かなって思ってたけど、彩花ちゃんがいてくれてよかった。」
「うん。私も絶対剣道部に入る。結那ちゃんがいてよかった。」
　私はそのとき、剣道部に決めた。もしも結那ちゃんが居なかったら、私は剣道部を選んでいなかったかもしれない。だから、その時剣道部に入ると言い切ってくれて、背中を押された。
　二回目の体験入部は弓道部に行ったが、入部した最初の頃は本物の弓を的に射ることができないし、部活の静か過ぎる感じが私に合っていないと感じた。
　体験入部の一回目も二回目も雨が降っていて屋外の部活ができなかったので、三回目が追加された。私は二つとも屋内の部活だったので、どうしようかなと思ったが、同じ部活にもう一回行ってもいいよと先生に言われたので、結那ちゃんといっしょに剣道部に行った。一回目と違うことをして楽しかった。
　仮入部の時に部活の顧問の先生が私たち一年生に、
このまま剣道部に入部すると決めたのか、まだ迷っているのかを聞いたら、
「剣道部に入ります。」
とみんなが言ったので、
「三年間、この子たちといっしょに頑張っていくんだな。」
と私は思った。
　そして五月三十一日、剣道部に本入部した。音羽中学校の剣道部は部員数が少ないし、中学生になってから剣道を始めた人ばかりで強いチームというわけではなかったが、みんな仲が良くてふんいきも良かった。それに優しい人たちばかりだった。それも剣道部に入部したいと思った理由の一つだ。
　それから練習が始まった。最初の頃はまだ自分専用の道着や防具がなかったので、すり足の練習や学校にある竹刀や防具を借りて練

習をしたり防具を付けた人型の練習台で練習をしたりした。慣れない動きで難しかったし疲れたけれど、それ以上に楽しかった。

そしてやっと自分の道着や防具が届いた。かっこいい道着とはかまを早く着たかったし、自分専用で好きな色で名前が刺繍してあるというのがうれしかった。

本格的に練習が始まった。初めて人に面を打つときは怖かったし、強く打たれると痛かった。でもだんだん慣れてきて耐えられるようになってきて、上手く打てるようになった。

まだ、道着や防具がきちんと着られるようになったばかりで、まだ面しか教わっていないのに、市内大会の女子団体戦に出ることになった。団体戦は五人制で女子の先輩は四人なので、一年生の私か結那ちゃんが出るのだ。じゃんけんの結果、私が市内大会、結那ちゃんが東三大会に出ることになった。出られるのはうれしいけれど、みんなに迷惑をかけてしまうかもしれないと心配だった。五人のうち最後に戦う大将になったので、余計に緊張した。

七月二日の市内大会当日、私はじっとしていられないほど緊張していた。

試合が始まった。私が勝っても負けても、チームとして負けてしまうという状況になり、次は私の番だ。先生に、

「団体としては、もう負けているから、楽しんできなさい。」

と言われて、気合い十分で試合に臨んだ。審判の「はじめ」の合図で試合スタート、その途端すぐに面で一本取られた。取り返そうと思い意気込んだが、あっさり二本目も取られて負けた。あっという間だった。初めての大会だったので、緊張であまり声も出ず、平常心も保てず、とても悔しかった。残念な結果に終わり、初戦敗退となってしまった。けれど、部員数が少ないからという理由で強くない私が出られたのは経験になってありがたいし、これを機会にもっと強くなりたいという気持ちが高まった。

それからの練習で、小手や胴などの新しい技を教えてもらった。先生やコーチ、先輩からアドバイスをもらったり、音羽中学校を卒業した剣道部の先輩たちが来てくださったりして、前より成長できた。それに、前よりさらに剣道が楽しくなってきた。

七月二十五日の東三大会では、私は補欠と応援の役割で大会に参加した。試合が始まり、私は一生懸命応援をした。拍手をしながら、心の中で「頑張れ。」と言いながら。コロナの関係で、声を出してはいけないけれど、気がついたら少し声が出てしまっていた。それほど勝ってほしいという気持ちであふれて、夢中になって応援をしていた。一試合目は、勝った。みんなに大きな拍手を送った。

喜んでいる暇もなく、二試合目が始まった。興奮気味になっていた私は、さっきよりも大きな声で「頑張れ。」「いける。」などと応援をした。残念ながら二試合目は負けてしまったが、このメンバーでの初勝利でとてもうれしかった。

この大会でチームみんなでいっしょに頑張ることが楽しくて、もっと剣道が好きになった。この部に入って良かったと改めて思った。

正直なことを言うと、私も試合に出て勝ちたかった。そのために、九月に行われる新人戦で一本でもいいから取りたい。それに向けて、夏休みの練習で基本をしっかり身につけて、できていないことを改善しようと思う。

音羽中学校剣道部女子の団体の目標は、来年の市内大会で優勝し、東三大会で四位以内に入り、県大会に出場することだ。私の目標は、個人戦で、先輩たちよりも強くなるというくらいの気持ちをもって、決勝戦に出場することだ。そのために、もっと強くなれるように練習を頑張っていきたい。

剣道は防具を着ると暑いし、痛いこともあるけれど、それ以上に楽しくてやりがいのあるスポーツだと思う。

私が思う剣道の良さは、技が決まると気持ちがいい。大きい声が出せる。姿勢が良くなり、礼儀も身につく。体力と筋肉が付いてくる。かっこいい。とにかく楽しい。

「私、剣道部に入って良かった。」